

# Tokyo Tech Now 2016 について

自己点検・評価は、各大学が実施方法や周期を自ら定め、実施することにより、主体的に教育研究水準の向上や運営改善を図っていくことを目的としている。本学における全学的な自己点検・評価は、これまで5回にわたり、報告書「Tokyo Tech Now」としてとりまとめ、公表しているところである。

国立大学法人化後は、中期目標期間終了時に、その期間中の活動について全学的な自己点検・自己評価を実施することとしており、今回、第2期中期目標期間の終了にあたり、報告書「Tokyo Tech Now 2016」（通算第六版）の作成を行うものである。

本自己点検・評価では、次期中期目標期間における教育研究の質の向上や業務の改善に繋げるとともに、その結果を公表して説明責任を果たすことを目的としている。そのため、

企画立案組織である各室等は、

- I 中期目標期間の実績概要（組織の特徴及び実績の概要）
- II 特記事項（優れた点及び特色ある点）
- III 次期中期目標期間に向けた課題等
- IV 中期計画の実施状況（主担当分）

各学部・研究科・附置研究所・学内共同研究教育施設等は、

- I 中期目標期間の実績概要（組織の特徴及び実績の概要）
- II 特記事項（優れた点及び特色ある点）
- III 次期中期目標期間に向けた課題等
- IV 中期目標・中期計画ごとの自己点検・評価
  - ①実施内容と達成状況、
  - ②自己評価判定（4段階）
    - 「中期計画を上回って実施している」（IV）
    - 「中期計画を十分に実施している」（III）
    - 「中期計画を十分には実施していない」（II）
    - 「中期計画を実施していない」（I）
  - ③今後の課題（達成状況を検証した上で、今後改善をしていく必要があると考えられる事項や更に強化すべき取組）

（V 中期目標期間の教育研究評価において現況分析を行った部局においては、現況調査表を添付）

※元素戦略研究センター、地球生命研究所、『以心電心』ハピネス共創研究推進機構については、中期目標・中期計画を持たないことから、I～IIIまでを記載することとした。

なお、執筆を担当した具体的な担当部署は以下の表のとおりである。

I：大学全体，学部，研究科	II：研究所，センター，資料集
はじめに	
Tokyo Tech Now 2016 について	第4章 附置研究所の自己点検・評価
第1章 第2期中期目標期間の全体的な状況	4.1 資源化学研究所
第2章 室・センターの自己点検・評価	4.2 精密工学研究所
2.1 企画室	4.3 応用セラミックス研究所
2.2 評価室	4.4 原子炉工学研究所
2.3 教育推進室（入試室）	第5章 附属科学技術高等学校の自己点検・評価
2.4 研究戦略室	第6章 附属図書館の自己点検・評価
2.5 財務管理室	第7章 学内共同研究教育施設等の自己点検・評価
2.6 国際室	7.1 保健管理センター
2.7 総合安全管理センター	7.2 像情報工学研究所
2.8 情報基盤統括室	7.3 フロンティア研究機構
2.9 広報センター	7.4 ソリューション研究機構
2.10 社会連携本部	7.5 学術国際情報センター
2.11 男女共同参画推進センター	7.6 教育施設環境研究センター
2.12 大学改革推進本部	7.7 火山流体研究センター
2.13 国際教育研究協働機構	7.8 留学生センター
2.14 コンプライアンス・危機管理室	7.9 量子ナノエレクトロニクス研究センター
2.15 教育研究資金適正管理室	7.10 外国語研究教育センター
2.16 内部監査室	7.11 バイオ研究基盤支援総合センター・放射線総合センター
第3章 学部・大学院研究科の自己点検・評価	7.12 リベラルアーツセンター
3.1 理学部	7.13 元素戦略研究センター
3.2 工学部	7.14 地球生命研究所
3.3 生命理工学部	7.15 『以心電心』ハピネス共創研究推進機構
3.4 大学院理工学研究科（理学系）	7.16 技術部
3.5 大学院理工学研究科（工学系）	第8章 資料集
3.6 大学院生命理工学研究科	
3.7 大学院総合理工学研究科	
3.8 大学院情報理工学研究科	
3.9 大学院社会理工学研究科	
3.10 大学院イノベーションマネジメント研究科	

このうち、評価室は、第2期中期目標期間の全体的な状況、資料集の各項目について、第2期（平成22～27年度）中期目標期間の6年間の状況をとりまとめた。